

めざめよ！就活生 『ドラゴン桜』の作者による 就活サクセスマンガ



廃校寸前の高校の生徒達が、元暴走族の弁護士に導かれて東大合格を目指すマンガ『ドラゴン桜』（三田紀房）。阿部寛主演でドラマ化もされたが、この作者原作（途中から作画も担当）の就活版『ドラゴン桜』ともいべきマンガが、この『銀のアンカー』だ。

主人公のカリスマヘッドハンター（職業紹介者）と出会った大学生達が、「就職とは何か？」、「就活とは何か？」について真剣に考えるようになり、自分の道を見つけていく。題名の銀のアンカーとは、船がアンカー（錨）をおろすように、就職を人生の目標を決めることに例えた主人公の言葉からきたもの。子どもの頃から、また大学に入る前から目標（仕事、職業）を決めて生きている人をプラチナのアンカーまた金のアンカーを持つ人、それに対して学生時代に自分の仕事を決める人が銀のアンカーを持つ人とする

そのまま実際の就活の手本となるかと言われれば、連載時と就職状況も大きく変化しており、登場人物の学生と本学学生とではおかれている状況に違いも多く、すべてを鵜呑みにすべきではない。しかしながら、マンガ内で重視される就活への取り組み方や心のありようは、何時の時代も変わらず学生に求められるものである。本学では就活本・就活雑誌も読まない学生も多く（マンガの中にはそのような学生達も登場する）、就活に取り組む時期も遅い。せめて早いうちにこのマンガを読んで就職（就活）について考えてみて欲しい。

（金岡・・・就職支援副センター長）